

# 第33回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会・学術大会

## 株式会社プロシード共催 ランチョンセミナー 2

開催日 2023年6月8日

時間 12:10~13:10

会場 学術総合センター（一橋講堂）B会場

### 矯正医と口腔外科医の連携強化を目指して 矯正医は口腔外科医に、口腔外科医は矯正医に何を求めているか？



座長 堀之内 康文

公立学校共済組合九州中央病院  
歯科口腔外科



演者 佐々木 匡理

公立学校共済組合九州中央病院  
歯科口腔外科



演者 佐野 良太

佐賀駅前矯正歯科

近年、コロナ禍によるマスク需要もあってか、矯正治療を希望する患者は増加しており、それに伴って顎変形症手術を行う患者も増加している。

顎変形症治療では、術前・術後の矯正治療を担当する矯正医と顎矯正手術を担当する口腔外科医の緊密な連携が必須であり、建築で例えるならば矯正医は設計士、口腔外科医は大工で、どちらが欠けても成立しない。

「竜」と「虎」のように力に優劣なく、対等にディスカッションができることが重要である。

日々の臨床において、矯正医が口腔外科医に、あるいは口腔外科医が矯正医に何を求めているかを知ることが有意義であり、より良い治療結果につながることは言うまでもない。

実際にどこまで外科手術で対応が可能か（上顎骨 / 下顎骨の移動量（限界）や方向など）、どこまで矯正治療で対応が可能か（抜歯あるいは非抜歯、矯正用アンカースクリューの使用、術後矯正での対応など）を十分に理解し、①最終的な咬合関係の決定（どちらがサージカルプリントを作製するかなど）、②手術法の決定（下顎骨単独あるいは上下顎骨切り、オトガイ形成術するかしないかなど）、③上下顎骨切りにおける上顎骨の位置の決定（硬組織と軟組織のどちらをメルクマールにするかなど）をどちらか一方のみではなく、一緒に決定することが大事である。

また、全身疾患を有する患者や欠損補綴が必要となる多数歯欠損の患者、醜形恐怖症、うつ病などの精神疾患のある患者など、治療計画や術式について以外に考慮すべき点を有する患者も増えており、矯正医と口腔外科医の間でより緊密な患者情報共有も欠かせない。

本セミナーでは、顎変形症治療において矯正医と口腔外科医が日々感じている問題点を挙げ、ディスカッションし、明日からの診療につなげていきたいと考えている。